Okamoto, K. 1978. The *Carex* species of Okayama Prefecture in Japan (II). Bull. Okayama Univ. of Sci. **14**: 119-129. Yoshikawa, J. 1957, 1958, 1960. Icones of Japanese *Carex*. **1**: 1-141; **2**: 142-281; **3**: 282-421. Kanazawa.

*　　*　　*　　*

日本産のスゲ属ミコシガヤ節に属する特に近縁な 3 種について染色体の観察をし，その類縁関係について考察した。その結果，キビノミノボロスゲでは減数第一分裂中期において38個の 2 価染色体が観察され，対合異常は見られなかった。またミノボロスゲ，ツクシミノボロスゲでは，ともに56個の 2 価染色体が観察された。キビノミノボロスゲは他の 2 種に比べて大型の染色体を 8 個前後持っており，核形態学的に明瞭なちがいが見られた。キビノミノボロスゲは主に中国大陸や朝鮮に広く分布しており，日本では岡山県の神社の境内でのみ見られる。本種は神社の禊用に持ち込まれたものであることが推定された。

□「熊本の野草」編集委員会：**熊本の野草〈上〉春～夏編** 308pp. 1986. 熊本日日新聞社，熊本. ￥2,800. 熊本県の高等学校の先生方の協力になるもので，熊本大学薬学部浜田善利氏の監修である。平地，山地，海岸の植物に分けてカラー写真を各頁 1－2 枚ずつ配し，解説をつけてある。解説は漢字が多く使われていて，硬い感じがするが，これは他の図鑑の「やさしい」記述に追随せず，正確さを意図した結果である。そのほか植物名の由来や漢薬との関係，用途などに意が用いられている。　　(金井弘夫)

□浅野一男・伊知次国夫：**伊那谷の植物** 261pp. 1986. 信濃毎日新聞社，長野. ￥2,200. カラー写真を主体に，暖帯，中間温帯，温帯の順に分け，各々の中では森林から草原へ生育地別に植物を配列してある。解説は植物名方言や用途に著者の永年の調査の結果が盛り込まれている。巻末の方言名索引は方言名と標準和名がセットになっていて，いちいちその頁をひかなくてもどの植物かわかるので，たいへん便利である。　(金井弘夫)

□麓　次部：**四季の花事典** 542＋11pp. 1985. 八坂書房，東京. ￥5,800. 著者は1962-1978年京都府立植物園長。春夏秋冬の四季に分けて，その中をアイウエオ順に花木，花草の名をあげて解説したもの。写真や図を多く入れ，内容には和歌・俳句などもあげて，人生との関連や植物学上，園芸学上の解説をする。誰にも親しみやすい本である。

(木村陽二郎)